

# 由利

立教187年

令和6年

12月号



## 教祖百四十年祭いさみの集い

### 1ヶ月間の主な歩み

#### 十二月

- 一五日 教務支庁ひのきしん
- 一九日 北蒲原分教会月次祭
- 二二日 大教会月次祭
- 二三日 みちのだい育み塾
- 二六日 本部月次祭、婦人会例会
- 二七日～二十九日 役員当番
- 三十日 大教会役員会議

#### 十一月

- 一日 秋田教区いさみの集い
- 三日 支部例会（由利分）
- 五日 お願いづとめ（十三時半）
- 七日 おさづけ取り次ぎ日
- 八日 避難訓練
- 一三日 由利分教会月次祭



り、そこから練り合いをして和氣あいあいと楽しみました。

## 年祭活動の躍進に向かって 秋田教区教祖百四十年祭いさみのつどい開催

今月十二月一日午前十時より、秋田教務支庁において“秋田教区教祖百四十年祭いさみのつどい”が開催されました。

三殿参拝の後、開会の挨拶として、菱川教区長先生が同つどいを開催するに至った教区の思いをお話しされ、又このつどいを通して年祭活動のさらなる実動に繋げて頂きたいと教区長としての強い思いを訴えられました。

その後記念講演として、韓国伝道庁長、吉川万寿彦(ますひこ)本部長先生のお話しとなりました。お話の冒頭からまず『皆さん、LEDの様な心(常に変わる事なくいつまでも明るいい心)になりました』という

最初からユーモアに溢れた参加者を引き付けるようなお話から始まりました。

同先生は、青年時代に韓国伝道庁の書記を長い間つとめられ、伏せ込まれました。韓国伝道というところ、天理教信者数は何万人もおられるようですが、現在天理教信者の組織が二つに分かれているという事です。その中でも想像がつくかと思いますが、(一つの組織は、天理教本部に直結している組織です。)おそらく先生が書記をつとめられている頃の伝道庁は、全体を治めていくのに並大抵ではない御苦労があったと思います。先生は、そのような様々なお道の御苦労の節を経て、ついには陽気な心とお助けの実践の姿勢が見事に融合したような高い次元の信仰に辿り着かれたのではないかと勝手な推察ではあります。そう思わせて頂きました。

後半のお話の中でしたが、論達第4号の中に“親身に寄り添い”とい

う表現がありますが、にいがけ、お助けの前の段階でまず相手に親身に寄り添う事が大切で、それがやがてにいがけ、お助けに繋がっていくのではないかとお話されました。確かにその姿勢を忘れてはいけなさと痛感致しました。

同つどいは、この記念講演の後、質疑応答、その後総立ちでよろづよ八首をつとめさせて頂き、お昼頃に閉会致しました。

### ☆これからの行事☆

十二月十五日(日) 九時半～  
婦人会恒例の大掃除、教会神殿の大掃除をさせて頂きます。何卒ご協力よろしくご協力お願いします。

### 由利分教会元旦祭ご案内

令和七年元日午前十時三十分より執行させて頂きます。元気に新年を迎えさせて頂ける事の御礼と、結構に新たな一年を迎えさせて頂ける事を祈願してつとめさせて頂きます。

春季大祭祭典役割表

神殿講話 北蒲原分教会長様

開扉・献饌の男子の方は**十時**まで、女子の方は、**十時二十分**までおつとめ着を着用し、神殿にご集合下さい。

ておどり												会 長	祭主
胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	チャンポン	笛	地方(副)	地方(主)		亀田町	由利道
松田理奈	佐々木めぐみ	北蒲原奥様	亀田町	由利東布	上之浜	雄物川	佐々木由正	東滝沢	利翔布	北蒲原会長	由利道	仁賀保	會長夫人
矢島町	小松敬子	伊藤奈律子	前 半	齋藤清一	小野恭和	贊者	齋藤賢爾	利翔布	佐々木義實	由利道	雄物川	東滝沢	龜田町
小川道子	齋藤美和子	中村柳子	齋藤清一	佐々木由明	由利東布	小林大晃	桑原廣	佐々木義實	豐島栄二	由利東布	伊藤伸	佐々木由明	佐々木良美
豊島素子	佐々木素子	豐島絢子	後 半	仁賀保	指図方								

部内だより

矢島町分教会

十二月十六日、矢東の大祭に行かせて頂きました。高齢者ですが元気で有り難いです。

東滝沢分教会

毎年恒例の十一月おぢば帰りをしました、帰路に北陸の温泉でゆっくりたのしいおぢば帰りでした。

由利道分教会

今年は二人の孫が誕生し、外孫計四人のジジになりました。ところが内孫は授かる気配もありません。